

親と子そだて

清 水 正 男

親子の縁

わが国には、「子は三界の首枷^{さんがい かせ}」という諺がある。この枷^{かせ}とは、鉄や木などでつくり罪人の頸や手足にはめ、その自由を束縛する道具であるところから、人の行動を束縛するものであった。

いったん子を産み親となれば、たとえ離婚しようとまた蒸発してしまおうとも、三界すなわち過去・現在・未来にわたって、永却に親としての責任を逃れようとしても逃れられないものであることを意味している。

家庭とその中核としての親

「家庭は、けっして軽く考えることのできない、大きな責任のあるところですよ。親は家庭を組織し指導し、そして自分達の幸福と子供たちの未来に対する責任を負っています。」とはマカレンコが家庭教育論で述べているところである。

家庭に対する親の自覚

家庭づくりの主人公としての親は、子供の未来について、未長くいつまでも重責を負って逃れることができないことを肝に銘^{きも めい}すべきである。この点いくら強調しても強調しすぎることはない。

親の愛

幸にも子どもに対するこの重責を重しとしないものに、親に賦与された強い親の愛がある。家庭の幸福をすすめて、こどもを育てる基盤になっている。

母の愛

とくに母の愛は、深く広く大きく、幼児期のこどもにとっては、まさに太陽のような役目をはたしている。

平等愛と付与的愛

さらに親のもつ愛として見逃せないものは同胞愛を根本動機とする宗教的人間愛に通ずる平等愛である。そして、普遍的価値の受容性と創造性を伸ばそうとする付与的愛を持つことも忘れてはならない。

子どものもつ愛

これらの愛に応えるかのように、子どもたちはしっかりしたもの即ち、自分の保有している自己発展可能性についてのすばらしい愛を持っている。そしてすぐれたあたたかい環境を得て十分に発露することを、親子ともども記憶すべきものと思われる。

子育ての基盤としての愛

家庭の子育ての成否には、この愛の課題は忘れることはできない。子育ての基盤を形成するものと言えよう。

家庭生活と陶冶、人間形成の基盤

家庭の生活は、生活そのものが、その中に住む人間を人間として根源的に人間形成をはかり陶冶する重要な機能を持っている。

もしかりに、不幸にも上記の根源的、基礎的な教育が十分に持たれないときには、人間が人間として成長するという、きわめて重要な基盤を失ってしまうということになる。

こどもの権利と親の自覚

したがって、こどもの側に立って考えるならば、家庭でこのような教育を十分に受けることは、子供の持つ正当な権利であると言えよう。逆に親はこの子供の権利に対し、責任と義務を持つことを明確に自覚すべきものであろう。このことからの逃避は永久に不可能事であることを銘記^{めいき}すべきである。

社会機能の親への委任

これは、社会自身の果たす人間形成の働きに深くかかわる、社会自身の立場から見ることにも出来よう。即ち社会は、親に対して、家庭における責任ある教育を通じて、立派な人間に育て上げるという社会的機能を委任しているのである。

親の権威

したがって、当然のことながら親は、社会に対して委任された機能につき重責を負っている。と同時にこどもの教育に対して権威を持つことを許されている。親の権威としては、社会から社会意志を代行する行為者としての権威、すなわち社会の持つ権威を行使する役割を与えられて持っていると言えよう。

親のもつ責任・義務・権威

親は家庭における教育的責任及び社会に対する義務と、社会から委任を受けた権威とを、慎重深く行使しなければならないのはそのゆえである。

こどもの発達課題重視

そのためには、子どもが生涯を通じて通過するいくつかの発達段階で、その次の段階に到達するのに達成しておかねばならぬ課題、すなわち発達課題を重視しなければならない。

中核的発達課題

中核的発達課題としては、身体的成熟についてのもの、自我や人格形成に関する

もの、文化受容についてのもの等々が、大局的に見て挙げられる。

家庭内教育の特色

その中で、家庭内での教育機能は、乳幼児期に主として果たされる比重が大きいものである。したがって当期での学習内容も、家庭に固有であるような、他の教育機関で代行し難いものとなる。しかも、母子関係を強く保ちながらそれらへの活動が展開されて行く。

家庭教育のうち中核的内容

家庭教育には、したがって、自他概念の形成とか感情、情緒、性役割等の学習から筋統制力の獲得、基本的コミュニケーションの修得、基本的生活習慣の形成などはすべて欠かせないところである。

家庭教育全般の内容

家庭教育全般の内容としては、人間関係の学習、性役割の学習、パーソナリティの形成、基本的生活習慣の形成、日常生活技術修得、価値観・職業的自我的形成等々の学習が見られる。

人間関係

人間関係では、生後最初に出会った母親との間の、信頼関係としての原信頼を負いながら、家庭内でえた人間関係形成の技術は、生涯を通じて有効な学習効果となる。

性 役 割

性役割は男らしさ女らしさの修得が、家庭内での男性・女性の両モデルとしての両親を前に、両親の意図に対してのこどもの性役割同一視によって進行する。

パーソナリティ形成

パーソナリティ形成には、家庭のしつけによる行動規制をはじめ、あたたかい家庭

内での安定感、豊かな体験学習などが中核的な部分をなすに至る。

基本的生活習慣

基本的生活習慣としては、子供が最小限度の自立を図るためにもたれるもので、意図的計画的に実施される。まず食事、排泄、睡眠など、人間の生理的要求に密接に関連する部分であるが、統制と自立とがしつけられる。ついで、着衣、清潔のような社会的要求にそってのしつけが持たれる。

日常生活技術の学習

日常の生活技術の学習は、普通に家庭生活を送るのに必要なものである。ミニмум・エシェンシャルなコミュニケーション技術（話す・きく・よむ・書く）からテレビのみ方、ガス、水道、そうじ、戸の開閉、あいさつ、買物、あそび、けんか等々、目的的经验の日常的な行為への習熟がはかられる。

価値観・職業的自我の形成

価値観・職業的自我の形成は、こどもの成長と共に高められる。そして家庭にとって大きな教育内容となっていく。

安全、平和な日本とその基礎づくり役の家庭

戦後、混乱の中から立ち直って40年、日本の教育は日本人の手でという連合国側からの指導が、今日結実しつつあるのを見ることができる。

平和で、国内どこへ旅行し生活しても全く安全である。世界的に見て、第一級のなこの現況は、わが国の教育、とくに家庭教育の成果によるものと思われる。

各々の家庭が、いっしょうけんめいに正面切って人口問題にとり組み、家庭教育を学習し、そして世界に範をなすような生涯教育を実践しようとしている。この努力が今日報われつつあるものと言えよう。

今後の発展と課題

今後のいっそうの発展を願えば、さらに検討願いたい課題を挙げる必要があるであろう。

母親の研修

その一は、生物学的に親となった者、とくに母親の母親役割の万全な遂行についての研修と一層の充実である。家庭教育の根幹にかかわる問題である。とくにマターナル・デプリベーション maternal deprivation の拡大は是非とも防止するよう、各般の施策・努力と母親自身の自覚が必須となる。

価値観・学校家庭両教育の役割整理

第二は、しつけの基盤となる価値観の確立と課題と、学校教育と家庭教育の役割がとかく混乱しがちであるのでその整理、とくに家庭への学校教育下請け現象をとりこまないようにし、家庭教育の一段の充実化を図る課題である。

情報と教育への対処

第三は、情報伝達についての検討、研究と対処である。とくに直接的情報伝達がだれかれとなく持たれる自由化は結構であると言えよう。しかしこれに対しての適切な積極的指導の遅滞性は許されないものと言えよう。困難な課題としてしまわないで、積極的にとり組むべきものである。とくに家庭教育に情報伝達を組み込んだ高次元の教育への発展は、大きく望まれよう。

(本学教授 教育学博士)